

山形市を拠点に2000件に及ぶ建築を手がけてきた本間利雄氏。
地域の気候や風土、民家などの伝統建築を反映した本間氏の設計の特徴は屋根にある。
意匠性に加えて耐久性や施工性が求められる屋根材には元旦ビューティ工業の製品を活用。
職人の経験もある本間氏は、
「職人の心を持ち続けて、職人の視点に立った製品造りを続ける会社だからだ」と、その理由を話す。

共鳴した職人の技を生かす建築

INTERVIEW

●
本間利雄設計事務所
+ 地域環境計画研究室
代表

本間 利雄 氏



PROFILE

本間 利雄 (ほんま・としお)

1931年山形県小国町に生まれる。1949年に山形県立米沢工業高等学校建築科を卒業後、本間建設で大工や塗装などを修業。その後、山形市内の設計事務所勤務を経て、1962年4月に本間利雄設計事務所を開設。保養所の設計を通して吉村順三氏、また共同設計を通して松田軍平氏、坂本俊男氏に師事。1974年にはエコロジカルプランニングの権威者イアン・L・マクハークと出会い、彼の著書「Design With Nature」に触発されて翌年、地域環境計画研究室を併設し、「葉山南麓生態調査」を加倉井昭夫氏らと、また「山形県下蔵座敷調査」を伊藤ていじ氏と共同で行うなど、東北・山形の自然や景観に相応しい風土性溢れる建築づくりを標榜するとともに、地域の建築家ならではのきめ細かな、地域に根ざした活動を続けている。

——中央へ進出するという選択肢もあったと思いますが、一貫して山形を拠点に活躍されてきましたね。

本間 ● 山形市内で設計事務所勤務を経て、事務所を開設したのが1962年です。確かに中央に進出する機会もありましたが、地域の建築家だからこそできることがあると考えるようになりました。恩師の影響も大きいですね。吉村順三先生からは設計の本質、松田軍平先生、坂本俊男先生からは組織的な設計事務所における建築家の姿勢を学びました。特に松田先生の「中央の建築家が国内のすべての建築を手がけようとするのは間違い。地方のことはその地方の建築家が最も良く知っている」と言われた言葉が大きな支えになりました。同時に、地域には地域の建築があるということです。気候や風土を反映する。日本の伝統的な民家は、その代表です。

——作品を拝見すると屋根に特徴があるように感じます。地域性を反映して、民家などをモチーフにした結果ですか。

本間 ● そうですね。民家は地域ごとに異なりますが、特徴は屋根にあります。その角度は背後の山と一致します。日本だけでなく、マチュピチュ(ペルー)に視察に行った時も、遺構の屋根の角度と背後のアンデスの山の傾斜が一致した。屋根の『根』は、尾根の『根』でもあるのではないのでしょうか。さらに、山は信仰の対象でもあります。合掌づくりの屋根は手を合わ

せた形そのものでもあります。地域の建築にとって屋根は重要で、屋根がなければ、建築にあらずと考えています。

屋根で地域性を表現する

——職人の経験もあり、特徴とされている屋根もまさにその世界ですね。

本間 ● 兄の経営する建設会社で3年間、大工の修行をしました。左手には当時の傷跡が残っています。左手は職人の手、ペンだこのある右手は建築家の手。今でも道具を見れば、職人の技能が分かります。実は元旦ビューティ工業さんを紹介してくれたのも屋根職人でした。

——屋根材と一口に言っても基本性能を満たしたうえで、それぞれの建築に応じた機能などが求められますね。

本間 ● 例えば山形市の「山寺風雅の国」で求めたのは素材感です。芭蕉の句でも知られる山寺(宝珠山立石寺)の麓に建設された和風レストラン棟やギャラリー棟などで構成する複合施設です。山形の伝統的な民家の屋根勾配を採用しました。勾配は民家と同じにしても銅板では、とげとげしい感じになってしまいますが、元旦ビューティ工業の製品によって屋根材が主張しない自然な感じを表現できたと思っています。

——形状が複雑になると特に施工性が重要なテーマになってきますね。

本間 ● 福島県国見町の「国見観月台文化センター」は、重層屋根が特徴です。

地域の拠点となる文化、保健、福祉の複合施設で、シンボルタワーのほか、センター棟とホール棟で構成されています。町の歴史に軸線を合わせたうえで、ホール棟は松傘をイメージして八角形の屋根を3層重ねました。トップライトから採光する方法を採用するなど、屋根には意匠性に加えて、複合的な性能と施工性が求められました。特に接合部の納まりなどがポイントになり、元旦ビューティ工業の加工精度が発揮された施工例と言えると思います。

——場所によって異なるでしょうが、東北は冬の気象条件が厳しいと思いますが。

本間 ● 厳しい気象条件と言えば、下北半島の北東端に位置する青森県東通村の「東通村立東通小学校」ですね。地域のシンボリックな建築をめざして、村に散見されるマンサード屋根型を取り入れたのですが、そこには、先人が厳しい風土に立ち向かってきた歴史や精神性を子供たちに伝えたいという思いがあります。

また、屋根裏の空間を活用できるマンサードの屋根型は、大きな開口部によって日差しを校舎の奥まで取り入れる役割を果たします。屋根材は、フッ素樹脂塗装ガルバリウム鋼板ですが、風や雪など厳しい気候条件に対する耐久性が重要な要素であり、これらに対応できる屋根材として元旦ビューティ工業の製品を採用しました。

——製品を依頼する場合、この建物では、どこが重要なポイントなのか。互いの意志の疎通、コミュニケーションが欠かせないと思いますが。

本間 ● 現在では、新製品が発売されると事務所で勉強会を開いたり、月に1回のペースで研修会を開催したりしています。素材感や意匠性を実現する高い加工精度、さらに耐久性など屋根材には多くの機能が求められます。加えて職人が



山寺風雅の国（施工場所：山形市山寺）



国見町観月台文化センター（施工場所：福島県伊達郡国見町）



東通村立東通小学校（施工場所：青森県下北郡東通村）

施工しやすいように考えた製品づくりは、元旦ビューティ工業ならではのと思っています。職人の心意気を兼ね備えたメーカーでもあり、今後も良きパートナーとして、互いに協力して地域に根ざした建築を手がけていきたいと考えています。

お問い合わせ先

金属屋根40年の実績

元旦ビューティ工業株式会社

神奈川県藤沢市湘南台1-1-21

TEL(0466)45-8771

<http://www.gantan.co.jp>

全国9,000人の屋根施工の全国ネットワーク